

科目名	日本語		
担当教員名	前田 庸子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

2年次の留学生を対象とする日本語授業で、1年次履修の「日本語 ・ 」に続き日本語の4技能（「読む」「書く」「聞く」「話す」）の向上を目指す。

科目の概要

さまざまなスタイルの文章を読み取り、それに基づいて自分の考え、意見を口頭および文章で表現する力をつける。読解では、正確に内容理解ができるように、構文・文法・語彙・表現の学習をあわせて行う。

学修目標

この科目を修了するために、以下のことに注意して授業に出席することが必要である。

1. 取り上げられるテーマについて文章を読んで内容を理解し、課題がこなせるようにする。
2. そのテーマについて考え、自分の意見を進んで述べ、授業に参加する。
3. 授業中の小テストおよび課題の提出物は、平常点として評価の対象となるので積極的に取り組む。

内容

1	ガイダンス、文法・読解の総合練習
2	新聞の読み方
3	新聞記事の読解（報道記事、解説記事、コラムなど） その1
4	新聞記事の読解（報道記事、解説記事、コラムなど） その2
5	説明文の読み方
6	説明文
7	評論・論説文の読み方
8	評論・論説文 その1
9	評論・論説文 その2
10	エッセーの読み方
11	エッセー
12	小説の読み方
13	小説
14	復習（文法の弱点補強、読解のテーマに関連した視聴覚教材の視聴）
15	まとめ

評価

筆記試験70点、平常点（提出物を含む）30点、3分の2以上出席することで評価を受けることができる。60点以上を

合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材は教室で配布する。参考図書については必要に応じ教室で紹介する。

科目名	日本語		
担当教員名	八木 真千子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	4	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

2年次の留学生を対象とする日本語授業で、1年次履修の「日本語 ・ 」に続き日本語の4技能（「読む」「書く」「聞く」「話す」）の向上を目指す。

科目の概要

さまざまなスタイルの文章を読み取り、それに基づいて自分の考え、意見を口頭および文章で表現する力をつける。読解では、正確に内容理解ができるように、構文・文法・語彙・表現の学習をあわせて行う。

学修目標

この科目を修了するために、以下のことに注意して授業に出席することが必要である。

1. 取り上げられるテーマについて文章を読んで内容を理解し、課題がこなせるようにする。
2. そのテーマについて考え、自分の意見を進んで述べ、授業に参加する。
3. 授業中の小テストおよび課題の提出物は、平常点として評価の対象となるので積極的に取り組む。

内容

1	ガイダンス、文法・読解の総合練習
2	新聞の読み方
3	新聞記事の読解（報道記事、解説記事、コラムなど） その1
4	新聞記事の読解（報道記事、解説記事、コラムなど） その2
5	説明文の読み方
6	説明文
7	評論・論説文の読み方
8	評論・論説文 その1
9	評論・論説文 その2
10	エッセーの読み方
11	エッセー
12	小説の読み方
13	小説
14	復習（文法の弱点補強、読解のテーマに関連した視聴覚教材の視聴）
15	まとめ

評価

筆記試験70点、平常点（提出物を含む）30点、3分の2以上出席することで評価を受けることができる。60点以上を

合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材は教室で配布する。参考図書については必要に応じ教室で紹介する。

科目名	日本語		
担当教員名	小田 明子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

2年次の留学生を対象とする日本語授業で、1年次履修の「日本語 ・ 」に続き日本語の4技能（「読む」「書く」「聞く」「話す」）の向上を目指す。

科目の概要

さまざまなスタイルの文章を読み取り、それに基づいて自分の考え、意見を口頭および文章で表現する力をつける。読解では、正確に内容理解ができるように、構文・文法・語彙・表現の学習をあわせて行う。

学修目標

この科目を修了するために、以下のことに注意して授業に出席することが必要である。

1. 取り上げられるテーマについて文章を読んで内容を理解し、課題がこなせるようにする。
2. そのテーマについて考え、自分の意見を進んで述べ、授業に参加する。
3. 授業中の小テストおよび課題の提出物は、平常点として評価の対象となるので積極的に取り組む。

内容

1	ガイダンス、文法・読解の総合練習
2	新聞の読み方
3	新聞記事の読解（報道記事、解説記事、コラムなど） その1
4	新聞記事の読解（報道記事、解説記事、コラムなど） その2
5	説明文の読み方
6	説明文
7	評論・論説文の読み方
8	評論・論説文 その1
9	評論・論説文 その2
10	エッセーの読み方
11	エッセー
12	小説の読み方
13	小説
14	復習（文法の弱点補強、読解のテーマに関連した視聴覚教材の視聴）
15	まとめ

評価

筆記試験70点、平常点（提出物を含む）30点、3分の2以上出席することで評価を受けることができる。60点以上を

合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材は教室で配布する。参考図書については必要に応じ教室で紹介する。

科目名	日本語		
担当教員名	前田 庸子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

2年次の留学生を対象とする日本語授業で、1年次履修の「日本語 」、および「日本語 」に続き日本語の4技能(読む、書く、聞く、話す)の向上を目指す。

科目の概要

さまざまなスタイルの文章を読み取り、それに基づいて自分の考え、意見を口頭および文章で表現する力をつける。読解では、正確に内容理解ができるように、構文・文法・語彙・表現の学習をあわせて行う。

学修目標

この科目を修了するために、以下のことに注意して出席することが必要である。

1. 取り上げられるテーマについて文章を読んで内容を理解し、課題がこなせるようにする。
2. そのテーマについて考え、自分の意見を進んで述べ、授業に参加する。
3. 授業中の小テストおよび課題の提出物は、平常点として評価の対象となるので積極的に取り組む。

内容

1	ガイダンス、文法・読解の総合練習
2	説明文・解説文 その1
3	説明文・解説文 その2
4	評論・論説文 その1
5	評論・論説文 その2
6	エッセー その1
7	エッセー その2
8	復習(文法の弱点補強、読解のテーマに関連した視聴覚教材の視聴)
9	文学作品を読む その1
10	文学作品を読む その2
11	文学作品を読む その3
12	さまざまな分野の読み物を用いた読解練習
13	さまざまな分野の読み物を用いた読解練習
14	さまざまな分野の読み物を用いた読解練習
15	まとめ

評価

筆記試験70点、平常点(提出物を含む)30点、3分の2以上出席することで評価を受けることができる。60点以上を

合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材は教室で配布する。参考図書については必要に応じ教室で紹介する。

科目名	日本語		
担当教員名	八木 真千子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

2年次の留学生を対象とする日本語授業で、1年次履修の「日本語 」、および「日本語 」に続き日本語の4技能(読む、書く、聞く、話す)の向上を目指す。

科目の概要

さまざまなスタイルの文章を読み取り、それに基づいて自分の考え、意見を口頭および文章で表現する力をつける。読解では、正確に内容理解ができるように、構文・文法・語彙・表現の学習をあわせて行う。

学修目標

この科目を修了するために、以下のことに注意して出席することが必要である。

1. 取り上げられるテーマについて文章を読んで内容を理解し、課題がこなせるようにする。
2. そのテーマについて考え、自分の意見を進んで述べ、授業に参加する。
3. 授業中の小テストおよび課題の提出物は、平常点として評価の対象となるので積極的に取り組む。

内容

1	ガイダンス、文法・読解の総合練習
2	説明文・解説文 その1
3	説明文・解説文 その2
4	評論・論説文 その1
5	評論・論説文 その2
6	エッセー その1
7	エッセー その2
8	復習(文法の弱点補強、読解のテーマに関連した視聴覚教材の視聴)
9	文学作品を読む その1
10	文学作品を読む その2
11	文学作品を読む その3
12	さまざまな分野の読み物を用いた読解練習
13	さまざまな分野の読み物を用いた読解練習
14	さまざまな分野の読み物を用いた読解練習
15	まとめ

評価

筆記試験70点、平常点(提出物を含む)30点、3分の2以上出席することで評価を受けることができる。60点以上を

合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材は教室で配布する。参考図書については必要に応じ教室で紹介する。

科目名	日本語		
担当教員名	小田 明子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

2年次の留学生を対象とする日本語授業で、1年次履修の「日本語 Ⅰ」、および「日本語 Ⅱ」に続き日本語の4技能(読む、書く、聞く、話す)の向上を目指す。

科目の概要

さまざまなスタイルの文章を読み取り、それに基づいて自分の考え、意見を口頭および文章で表現する力をつける。読解では、正確に内容理解ができるように、構文・文法・語彙・表現の学習をあわせて行う。

学修目標

この科目を修了するために、以下のことに注意して出席することが必要である。

1. 取り上げられるテーマについて文章を読んで内容を理解し、課題がこなせるようにする。
2. そのテーマについて考え、自分の意見を進んで述べ、授業に参加する。
3. 授業中の小テストおよび課題の提出物は、平常点として評価の対象となるので積極的に取り組む。

内容

1	ガイダンス、文法・読解の総合練習
2	説明文・解説文 その1
3	説明文・解説文 その2
4	評論・論説文 その1
5	評論・論説文 その2
6	エッセー その1
7	エッセー その2
8	復習(文法の弱点補強、読解のテーマに関連した視聴覚教材の視聴)
9	文学作品を読む その1
10	文学作品を読む その2
11	文学作品を読む その3
12	さまざまな分野の読み物を用いた読解練習
13	さまざまな分野の読み物を用いた読解練習
14	さまざまな分野の読み物を用いた読解練習
15	まとめ

評価

筆記試験70点、平常点(提出物を含む)30点、3分の2以上出席することで評価を受けることができる。60点以上を

合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材は教室で配布する。参考図書については必要に応じ教室で紹介する。

科目名	日本語		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

留学生(3年次学生)のための日本語授業で、4つの技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)にわたり、上級段階の日本語を学びます。1年次履修の「日本語・」,2年次履修の「日本語・」を踏まえて、この科目を理解することが必要になります。

科目の概要

毎回、さまざまな分野から文章を選び、文法・読解学習を通して、自分の考えを口頭で、あるいは文章により、相手に適切に伝える練習を行います。授業では、身近な話題から初めて接するような話題まで、テーマを幅広く取り上げていきます。抽象的なテーマについても、自分の考えがうまく伝えられるようになることを目標に授業を進めます。

学修目標

この授業を修了するためには、授業中に課される課題を授業時間内で完成させ、できるだけ進んで自分の考えを表現していくことが求められます。

- 1 授業に出席し、問題となるテーマについて講義を受ける。
- 2 テーマを理解するための課題・構文練習を完成させ、意見交換を行う。
- 3 テーマ理解を深めるため、まとまった長さの文章を読み、日本語表現をさらに習得する。

内容

1	ウォーミングアップ: ガイダンス・日本語読解力を測る
2	A 指示することばに注意する(短文)
3	A 指示することばに注意する(中文)
4	A 指示することばに注意する(長文)
5	B 文のつながりに留意して読む(短・中文)
6	B 文のつながりに留意して読む(長文)
7	C 予測・推論をして文を読む(短・中文)
8	C 予測・推論をして文を読む(長文)
9	D 文章の組み立てをを考えて読む(短文)
10	D 文章の組み立てをを考えて読む(中文)
11	D 文章の組み立てをを考えて読む(長文)
12	D 文章の組み立てをを考えて読む(長文)
13	E 総合練習(4つの技能の総合練習)
14	E 総合練習(4つの技能の総合練習)
15	まとめ

評価

毎回の授業での課題完成（授業中に指示される読解のための課題完成）： 30%

筆記試験（まとまった文章を読み、理解を測る）： 70%

合計60%以上を合格点とします。

評価を受けるためには3分の2以上の出席が求められます。

合格点に達しなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教室での配布物が授業教材となります。

科目名	日本語		
担当教員名	八木 真千子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

3年次の留学生を対象とする日本語授業で、1年次履修の「日本語 ・ 」、2年次履修の「日本語 ・ 」、および「日本語 」に続き、日本語の4技能(読む、書く、聞く、話す)の向上を目指す。

科目の概要

授業では新聞、雑誌、文学作品、専門書などの生教材を使って読解力を高める練習を行い、上級レベルの日本語力をつける。教材のテーマをもとに、抽象性、社会性のある話題について自分の考えを正確に伝えられるように練習する。日本語学習として、文法・語彙・表現の補強も行う。

学修目標

この科目を修了するために、以下のことに注意して授業に出席することが必要である。

1. 取り上げられるテーマについて文章を読んで内容を理解し、課題がこなせるようにする。
2. そのテーマについて考え、自分の意見を進んで述べ、授業に参加する。
3. 授業中の小テストおよび課題の提出物は、平常点として評価の対象となるので積極的に取り組む。

内容

1	ガイダンス、文法・読解の総合練習
2	文章の読み方(3) 要約の練習
3	評論・論説文 その1
4	評論・論説文 その2
5	短編小説 その1
6	短編小説 その2 あらすじを書く
7	新聞 インタビュー記事
8	クイズ形式の速読
9	エッセー その1
10	エッセー その2
11	新聞 コラム
12	説明文 その1
13	説明文 その2 前回の説明文に関連した新聞の特集記事
14	詩歌(解釈し、感想を述べる)
15	まとめ

評価

筆記試験 70 点、平常点（提出物を含む）30 点、3 分の 2 以上出席することで評価を受けることができる。60 点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材は教室で配布する。参考図書については必要に応じ教室で紹介する。

科目名	日本語		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

留学生(3年次学生)のための日本語授業で、4つの技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)にわたり、上級段階の日本語を学びます。1年次履修の「日本語・」、2年次履修の「日本語・」、及び「日本語」を踏まえて、この科目を理解する必要があります。

科目の概要

毎回、さまざまな分野から、さまざまなスタイルの文章を選び、文法・読解学習を通して、自分の考えを口頭で、あるいは文章により、相手に適切に伝える練習を行います。授業では、身近な話題から、初めて接するような話題まで、幅広く取り上げていきます。抽象的なテーマについても、自分の考えがうまく伝えられるようになることを目標に授業を進めます。

学修目標

この授業を修了するためには、授業中に課される課題を授業時間内で完成させ、できるだけ進んで自分の考えを表現していくことが求められます。

- 1 授業に出席し、問題となるテーマについて講義を受ける。
- 2 テーマを理解するための課題・構文練習を完成させ、意見交換を行う。
- 3 テーマ理解を深めるため、まとまった長さの文章を読み、日本語表現をさらに習得する。

内容

1	A 文章を読む基本の問題：要点・段落・主題・場面・心情などの読み取り
2	A 文章を読む基本の問題：要点・段落・主題・場面・心情などの読み取り
3	A 文章を読む基本の問題：長文読解・要旨のまとめ・意見交換
4	B 説明文・解説文を読む
5	B 説明文・解説文を読む
6	B 説明文・解説文を読む
7	C 意見文・論説文を読む
8	C 意見文・論説文を読む
9	C 意見文・論説文を読む
10	C 意見文・論説文を読む
11	D エッセイを読む
12	D 物語文・小説(抜粋)を読む
13	E 総合練習(4つの技能の総合練習)
14	E 総合練習(4つの技能の総合練習)
15	まとめ

評価

毎回の授業での課題完成（授業中に課される読解のための課題完成）： 30%

筆記試験（まとまった文章を読み、理解を測る）： 70%

合計60%以上を合格点とします。

評価を受けるためには3分の2以上の出席が求められます。

合格点に達しなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教室での配布物が授業教材となります。

科目名	日本語表現技術		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

留学生(2年次学生)のための日本語関連科目の中で、特に「書く」ことを中心に授業を進め、日本語力の向上を目指す科目です。1年次履修の「日本語表現技術」を踏まえて、この科目を学習することが必要になります。

科目の概要

毎回、授業で取り上げるテーマ(文章の訂正・文章の組み立て・文章のまとめなど)を設定し、それに沿った課題をこなしながら、読む人に正しく伝わることを目標にして、文を書く練習を行います。「書く」練習を通して、一段上の「表現する技術」を身につけることを目指します。

学修目標

この授業を修了するためには、授業中に課される課題を授業時間内で完成させることが必要になります。

- 1 授業に出席し、問題となるテーマについて講義を受ける。
- 2 テーマを理解するための課題・構文練習を完成させる。
- 3 テーマ理解を深めるため、まとまった長さの文章を書き、適切な日本語表現を習得する。
- 4 自分で書きあげた文章を見直し、より良いものに仕上げようという姿勢が求められます。

内容

1	客観と意見の区別：絵から事実のみを読み取る・聞き取った内容を正確に伝える
2	客観と意見の区別：聞き取った内容を正確に伝える
3	客観と意見の区別：事実と意見を分離する(情報源を確認する・意見を述べる表現を学ぶ)
4	客観と意見の区別：事実と意見を分離する(自分の考えを適切に表現する)
5	客観と意見の区別：発想材料から文章を組み立てる(メモから文章を組み立てる)
6	客観と意見の区別：発想材料から文章を組み立てる(アウトラインの作成)
7	正しい文を書く：漫画を文章で表す・悪文を訂正する
8	正しい文を書く：難解な文をわかりやすく書きかえる
9	正しい文を書く：難解な文をわかりやすく書きかえる
10	正しい文を書く：難解な文をわかりやすく書きかえる
11	正しい文を書く：5W1Hを落とさずに書く
12	正しい文を書く：5W1Hを落とさずに書く
13	正しい文を書く：発想材料から文章を組み立てる(アウトラインに沿って表現する)
14	正しい文を書く：発想材料から文章を組み立てる(アウトラインに沿って表現する)
15	まとめ

評価

各回授業での課題の完成(授業中に課す課題を完成させることが評価の対象になります)： 30%

筆記試験（まとまった長さの文章を書くことが求められます）： 70%

合計60%以上を合格点とします。

評価を受けるためには3分の2以上の出席が求められます。

合格点に達しなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教室での配布物が授業教材となります。

科目名	日本語表現技術		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

留学生(2年次学生)のための日本語関連科目の中で、特に「書く」ことを中心に授業を進め、日本語力の向上を目指す科目です。1年次履修の「日本語表現技術」及び「日本語表現技術」を踏まえて、この科目を理解することが必要になります。

科目の概要

毎回、授業で取り上げるテーマ(文章の内容を正しく読み取る・図表を読んで理解するなど)を設定し、課題をこなしながら、読む人に正しく伝わることを目標にして、文を書く練習を行います。「書く」練習を通して、一段上の「表現する力」を身につけることを目指します。

学修目標

この授業を修了するためには、授業中に課される課題を授業時間内で完成させることが必要になります。

- 1 授業に出席し、問題となるテーマについて講義を受ける。
- 2 テーマを理解するための課題・構文練習を完成させる。
- 3 テーマ理解を深めるため、まとまった長さの文章を書き、適切な日本語表現を習得する。
- 4 自分で書きあげた文章を見直し、より良いものに仕上げようという姿勢が求められます。

内容

1	要旨をまとめる：短い文章の要旨をつかむ
2	要旨をまとめる：短い文章の要旨をつかむ
3	要旨をまとめる：段落ごとに内容をつかむ
4	要旨をまとめる：自分のことばで内容をまとめる
5	要旨をまとめる：自分のことばで内容をまとめる
6	図表を読んで表現する：図表を含んだ文章の読解練習
7	図表を読んで表現する：図表の提示・数字を文で表す
8	図表を読んで表現する：データの分析・考察
9	図表を読んで表現する：資料を使ってデータを分析する
10	図表を読んで表現する：資料を使ってデータを分析する
11	総合練習：ことわざを題材にして、意見文を書く
12	総合練習：ことわざを題材にして、意見文を書く
13	総合練習：テキストを読んで、意見を述べる
14	総合練習：テキストを読んで、意見を述べる
15	まとめ

評価

各回授業での課題の完成（授業中に課す課題を完成させることが評価の対象になります）： 30%

筆記試験（まとまった長さの文章を書くことが求められます）： 70%

合計60%以上を合格点とします。

評価を受けるためには3分の2以上の出席が求められます。

合格点に達しなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教室での配布物が授業教材となります。

科目名	専門日本語演習		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

留学生(2年次学生)対象の授業です。「文法」「発音」などの問題に焦点を当てて練習を行います。問題の理解に加え、専門・日常場面でのより高い日本語運用力を身につけることを目指します。

科目の概要

授業は次の4つの事柄について毎回プリントを配布し、与えられた課題について自ら考え、答えを出していくという演習形式で授業を行います。

- (1) 助詞：基本的な用法確認・動詞との関係を考える・類似表現の比較
- (2) 発音：発音の仕組みの理解・音の聞き分け・発音と聴解練習
- (3) 語彙：語彙を増やす練習・音読みのことばと訓読みのことば・目的や場面による語彙の選択
- (4) 文法：視点の変化による表現の違い(「スルとナル」「授受表現」「受身使役表現」など)

学修目標

この授業を修了するには、授業中に課せられる課題を完成させることが必要になります。さらに以下の事柄が求められます。

- 1 積極的に授業に参加し、自分で考え、答えを出していくという姿勢。
- 2 提示された課題についての予習・復習。
- 3 助詞・発音など、異なる分野の学習の整理。

内容

1	授業ガイダンス・発音 (長音)・語彙 (「～する」漢語動詞)
2	発音 (長音)・語彙 (「～する」漢語動詞)・助詞の使い分け
3	発音 (長音)・語彙 (漢語動詞)・助詞の使い分け ・構文 (スル・ナル)
4	発音 (長音)・語彙 (漢語動詞)・助詞の使い分け ・構文 (スル・ナル)
5	発音 (長音)・語彙 (漢語動詞)・助詞の使い分け ・構文 (スル・ナル)
6	発音 (無声化)・語彙 (漢語動詞)・助詞の使い分け ・構文 (視点の違いと表現)
7	発音 (無声化)・語彙 (漢語動詞)・助詞の使い分け ・構文 (視点の違いと表現)
8	発音 (「濁音」)・語彙 (動詞)・助詞の使い分け ・構文 (授受表現)
9	発音 (「濁音」)・語彙 (副詞)・助詞の使い分け ・構文 (授受表現)
10	発音 (「ダナラ行音」)・語彙 (副詞)・助詞の使い分け ・構文 (授受表現)
11	発音 (ダナラ行音)・語彙 (形容詞)・助詞の使い分け ・構文 (原因・理由の表現)
12	発音 (促音)・語彙 (形容詞)・助詞の使い分け ・構文 (受身・使役)
13	発音 (促音)・語彙 (形容詞)・助詞の使い分け ・構文 (条件を表す表現)
14	発音 (拗音)・語彙 (形容詞)・助詞の使い分け ・構文 (条件を表す表現)
15	まとめ

評価

課題の準備（翌週のための課題が課せられます）：30%

筆記試験（授業で学習した事柄の理解度を測ります）：70%

合計60点以上を合格とします。

評価を受けるためには3分の2以上の出席が求められます。

合格点に達しなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教室での配布物が授業教材となります。

科目名	専門日本語演習		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

留学生(2年次学生)対象の授業で、「文法」「語彙」などの問題練習を行います。内容理解に加え、専門・日常場面でのより高い日本語運用力を身につけることを目指します。「専門日本語演習」を踏まえてこの科目を理解する必要があります。

科目の概要

授業は次の4つの事柄について毎回プリントを配布し、演習形式で授業を行います。

- (1) 助詞：基本助詞の用法確認・類似表現の比較・終助詞について
- (2) 発音：アクセント・イントネーション・話しことばの省略形・発音と聴解練習
- (3) 語彙：語彙を増やす練習・音読みのことばと訓読みのことば・「思考」「推量」を表す言葉
- (4) 文法：配慮表現(敬語を含む)・さまざまな文末の表現(婉曲表現・否定を含む表現など)

学修目標

この授業を修了するには、授業中に課せられる課題を完成させることが必要になります。さらに以下の事柄が求められます。

- 1 積極的に授業に参加し、自分で考え、答えを出していくという姿勢。
- 2 提示された課題についての予習・復習。
- 3 助詞・発音など、異なる分野の学習の整理。

内容

1	授業ガイダンス・発音 (アクセント)・基本助詞の使い分け ・語彙 (訓読み)
2	発音 (アクセント)・基本助詞の使い分け ・語彙 (訓読み)・構文 (配慮表現)
3	発音 (アクセント)・基本助詞の使い分け ・語彙 (訓読み)・構文 (配慮表現)
4	発音 (アクセント)・基本助詞の使い分け ・語彙 (訓読み)・構文 (配慮表現)
5	発音 (アクセント)・基本助詞の使い分け ・語彙 (訓読み)・構文 (配慮表現)
6	発音 (アクセント)・基本助詞の使い分け ・語彙 (訓読み)・構文 (配慮表現)
7	発音 (アクセント)・基本助詞の使い分け ・語彙 (訓読み)・構文 (配慮表現)
8	発音 (アクセント)・基本助詞の使い分け ・語彙 (訓読み)・構文 (配慮表現)
9	発音 (イントネーション)・終助詞 ・語彙 (訓読み)・構文 (配慮表現)
10	発音 (イントネーション)・終助詞 ・語彙 (訓読み)・構文 (文末表現)
11	発音 (イントネーション)・終助詞 ・語彙 (訓読み)・構文 (文末表現)
12	発音 (イントネーション)・終助詞 ・語彙 (思考)・構文 (文末表現)
13	発音 (省略形)・助詞(総合練習)・語彙 (推量)・構文 (文末表現)
14	発音 (省略形)・助詞(総合練習)・語彙 (推量)・構文 (文末表現)
15	まとめ

評価

課題の準備（翌週のための課題が課せられます）：30%

筆記試験（授業で学習した事柄の理解度を測ります）：70%

合計60点以上を合格とします。

評価を受けるためには3分の2以上の出席が求められます。

合格点に達しなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教室での配布物が授業教材となります。

科目名	日本研究B		
担当教員名	安恒 佳代子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

留学生を対象とした、日本語を勉強する上での背景となる日本文化・日本社会を勉強する科目である。
前期履修の『日本研究 』を踏まえて本科目を理解する必要がある。

科目の概要

この授業では主に日本の産業・文化を中心に日本事情を紹介する。統計データを読み取り、現在の問題について考えたり、関連のある新聞記事や参考資料を読みながら、日本事情を理解するとともに、必要な語彙を増やし、自分の意見を発表することで日本語の運用力の向上も目指す。

学修目標

この授業を修了するには授業で取り上げたテーマについて自分で調べたり、よくニュースや新聞を読んで自分の考えをまとめる作業をしておくことが一番力になる。

また、授業で配布された資料に必要な事項を書き入れ、なくさずまとめていくことがとても大事である。

内容

1	日本の産業構造
2	日本の農業
3	農産物(米・野菜・果物)
4	日本の畜産業
5	日本の水産業
6	水産業の変化
7	日本の工業
8	機械工業1・2
9	中小工場と大工場
10	日本の商業
11	日本の交通
12	日本の文化
13	日本の年中行事
14	復習
15	まとめ

評価

評価

平常点（小テスト・課題の提出・発表）：30%

筆記試験：70%

合計60点以上を合格点とする。

三分の二以上の出席で評価を受けることができる。

合格点に達しなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】教室での配布物が授業教材となる

科目名	日本研究C		
担当教員名	前田 庸子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

2年次の留学生を対象とする。

科目の概要

日本の経済活動を理解する上で助けとなるトピックを取りあげ、学習する。テキストは、外国人のために書かれたものを使用し、それに新聞、雑誌などの生の読み物を加えていく。経済関連の知識と同時に、文型、語彙なども増やしていく。

学修目標

専門課程に必要な日本文化・日本社会に関する基本的な知識を習得する。同時に日本の経済活動を理解する助けとなるような社会的習慣を学び、経済活動に関係する一般的な知識や語彙を増やす。

内容

1	日本の姿
2	日本の姿
3	日本の自然
4	日本の自然
5	旅
6	資料を読む
7	日本語について
8	日本語について
9	日本のサラリーマン
10	日本のサラリーマン
11	冠婚葬祭
12	冠婚葬祭
13	コミュニケーション
14	コミュニケーション
15	まとめ

評価

筆記試験70点、平常点(提出物を含む)30点、3分の2以上出席することで、評価を受けることができる。60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は第 1 回目の教場で指示する。

参考図書は必要に応じ、教室で紹介する。

科目名	日本研究D		
担当教員名	小田 明子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

前期「日本研究 (C)」で得た日本社会・文化についての基本的知識を踏まえて履修する科目です。

科目の概要

日本社会の中で実際に生活し、学び、仕事をしていく上で必要な役に立つ日本語、コミュニケーションスキルを実践的に学びます。前期同様、日本の政治や経済その他「日本社会の今」を知ることができる教材等を使って、レジュメ、報告書など、いろいろな形の文章にまとめたり、内容を口頭で発表するなど、実践的な日本語運用力を養います。

学修目標

この授業では、次のことに留意して学習してください。

1. 毎回の授業への積極的な参加
2. 課題の提出
3. スピーチ・プレゼンテーション力をつける
4. 実用的な文章に親しむ。

内容

1	オリエンテーション 自己紹介と自己アピール
2	新聞記事の基礎知識
3	新聞記事を読んでハンドアウトにまとめる
4	ハンドアウトにまとめた記事を発表する
5	日本人のコミュニケーションスタイル
6	ビジネス慣習とマナー
7	いろいろな場面で使う敬語
8	報告書を書く
9	提案書を書く
10	提案内容を発表する
11	メール・ビジネス文書
12	広告コピー・説明書を読む
13	就職活動・インターンシップなどに役に立つ日本語
14	復習・整理
15	まとめ

評価

平常点（課題の提出・発表）：30%

筆記試験：70%

合計60点以上を合格とします。

合格点に達しなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教室での配布物が授業教材となります。

科目名	日本研究 E		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

留学生(3・4年次)を対象とする日本語授業です。日本文化・日本社会に関するさまざまな話題、異なる分野の読み物、新聞記事やニュースなどを素材として取り上げ、一段上の日本語レベルに到達することを目指します。また、日本での活動の手助けとなるような社会的習慣についても学習します。1年次履修の「日本研究A・B」2年次履修の「日本研究C・D」を踏まえての履修が必要です。

科目の概要

日本語学習に関しては、「語彙力」「要約力」「聴解力」「速読力」の向上を目標に学習します。

- (1) 語彙：社会生活における頻出語の習得(分野「社会・福祉・労働・医療・災害・交通」等)
- (2) 聴解：ニュースなどの聞き取り・ニュースによく出る語句の習得(書取と表現練習)
- (3) 読解：いろいろな分野の読み物の速読・内容把握

学修目標

新聞記事・ニュース・雑誌記事などを材料とし、毎回、演習形式で授業を進めていきます。そのため、この授業の修了には次のことが求められます。

- 1 授業で配布される問題・課題について、あらかじめ考え、解答を準備する。
- 2 授業中に行う意見交換・読解練習の内容をまとめることが課題となり、この課題を完成する。
- 3 積極的に課題をこなす姿勢が求められる。

内容

1	授業ガイダンス・語彙 (社会)・ニュースのことば (1~5)・読解
2	語彙 (社会)・ニュースのことば (6~10)・読解
3	語彙 (福祉)・ニュースのことば (11~15)・読解
4	語彙 (家庭)・ニュースのことば (16~20)・読解
5	語彙 (仕事)・ニュースのことば (21~25)・読解
6	語彙 (仕事)・ニュースのことば (26~30)・読解
7	語彙 (医療・健康)・ニュースのことば (31~35)・読解
8	語彙 (医療・健康)・ニュースのことば (36~40)・読解
9	語彙 (犯罪)・ニュースのことば (41~45)・読解
10	語彙 (犯罪)・ニュースのことば (46~50)・読解
11	語彙 (交通)・ニュースのことば (51~55)・読解
12	語彙 (交通)・ニュースのことば (56~60)・読解
13	語彙 (災害)・ニュースのことば (61~65)・読解
14	語彙 (災害)・ニュースのことば (総合練習)・読解
15	まとめ

評価

課題の完成（授業準備のための課題） 30%

筆記試験（学習の理解度の測定） 70%

合計60点以上を合格とします。

評価を受けるためには3分の2以上の出席が求められます。

合格点に達しなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教室での配布物が授業教材となります。

科目名	日本研究F		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

留学生(3・4年次)を対象とする日本語授業です。日本文化・社会に関するさまざまな話題、異なる分野の文章、新聞記事などを素材として取り上げ、より高い日本語レベルに到達することを目指します。また、日本での活動の助けになる社会的習慣についても学習します。1年次履修の「日本研究A・B」、2年次履修の「日本研究C・D」、及び「日本研究E」を踏まえての履修が必要です。

科目の概要

日本語学習に関しては、「語彙力」「要約力」「聴解力」「速読力」の向上を目標に学習します。

- (1) 語彙：社会生活における頻出語の習得(分野「環境・経済・情報」等)
- (2) 聴解：ニュースなどの聞き取り・ニュースによく出る語句の習得(書取と表現練習)
- (3) 読解：いろいろな分野の読み物の速読・内容把握

学修目標

新聞記事・ニュース・雑誌記事などを材料とし、毎回、演習形式で授業を進めていきます。そのため、この授業の修了には次のことが求められます。

- 1 授業で配布される問題・課題について、あらかじめ考え、解答を準備する。
- 2 授業中に行う意見交換・読解練習の内容をまとめることが課題となり、この課題を完成する。
- 3 積極的に課題をこなす姿勢が求められる。

内容

1	授業ガイダンス・語彙 (災害)・読解
2	語彙 (経済)・ニュースのことば (66~70)・読解
3	語彙 (経済)・ニュースのことば (71~75)・読解
4	語彙 (政治)・ニュースのことば (76~80)・読解
5	語彙 (政治)・ニュースのことば (81~85)・読解
6	語彙 (環境)・ニュースのことば (86~90)・読解
7	語彙 (環境)・ニュースのことば (91~95)・読解
8	語彙 (情報)・ニュースのことば (96~100)・読解
9	語彙 (情報)・新聞によく出ることば ・読解
10	語彙 (人口)・新聞によく出ることば ・読解
11	語彙 (労働)・新聞によく出ることば ・読解
12	語彙 (労働)・新聞によく出ることば ・読解
13	語彙 (教育)・新聞によく出ることば ・読解
14	語彙 (文化)・新聞によく出ることば ・読解
15	まとめ

評価

課題の完成（授業準備のための課題） 30%

筆記試験（学習の理解度の測定） 70%

合計60点以上を合格とします。

評価を受けるためには3分の2以上の出席が求められます。

合格点に達しなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教室での配布物が授業教材となります。

科目名	日本語（中級発展）		
担当教員名	前田 庸子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

2年次の留学生を対象とする日本語授業で、1年次履修の「日本語 ・ 」に続き日本語の4技能（「読む」「書く」「聞く」「話す」）の向上を目指す。

科目の概要

さまざまなスタイルの文章を読み取り、それに基づいて自分の考え、意見を口頭および文章で表現する力をつける。読解では、正確に内容理解ができるように、構文・文法・語彙・表現の学習をあわせて行う。

学修目標

この科目を修了するために、以下のことに注意して授業に出席することが必要である。

1. 取り上げられるテーマについて文章を読んで内容を理解し、課題がこなせるようにする。
2. そのテーマについて考え、自分の意見を進んで述べ、授業に参加する。
3. 授業中の小テストおよび課題の提出物は、平常点として評価の対象となるので積極的に取り組む。

内容

1	ガイダンス、文法・読解の総合練習
2	新聞の読み方
3	新聞記事の読解（報道記事、解説記事、コラムなど） その1
4	新聞記事の読解（報道記事、解説記事、コラムなど） その2
5	説明文の読み方
6	説明文
7	評論・論説文の読み方
8	評論・論説文 その1
9	評論・論説文 その2
10	エッセーの読み方
11	エッセー
12	小説の読み方
13	小説
14	復習（文法の弱点補強、読解のテーマに関連した視聴覚教材の視聴）
15	まとめ

評価

筆記試験70点、平常点（提出物を含む）30点、3分の2以上出席することで評価を受けることができる。60点以上を

合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材は教室で配布する。参考図書については必要に応じ教室で紹介する。

科目名	日本語（中級発展）		
担当教員名	八木 真千子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

2年次の留学生を対象とする日本語授業で、1年次履修の「日本語 ・ 」に続き日本語の4技能（「読む」「書く」「聞く」「話す」）の向上を目指す。

科目の概要

さまざまなスタイルの文章を読み取り、それに基づいて自分の考え、意見を口頭および文章で表現する力をつける。読解では、正確に内容理解ができるように、構文・文法・語彙・表現の学習をあわせて行う。

学修目標

この科目を修了するために、以下のことに注意して授業に出席することが必要である。

1. 取り上げられるテーマについて文章を読んで内容を理解し、課題がこなせるようにする。
2. そのテーマについて考え、自分の意見を進んで述べ、授業に参加する。
3. 授業中の小テストおよび課題の提出物は、平常点として評価の対象となるので積極的に取り組む。

内容

1	ガイダンス、文法・読解の総合練習
2	新聞の読み方
3	新聞記事の読解（報道記事、解説記事、コラムなど） その1
4	新聞記事の読解（報道記事、解説記事、コラムなど） その2
5	説明文の読み方
6	説明文
7	評論・論説文の読み方
8	評論・論説文 その1
9	評論・論説文 その2
10	エッセーの読み方
11	エッセー
12	小説の読み方
13	小説
14	復習（文法の弱点補強、読解のテーマに関連した視聴覚教材の視聴）
15	まとめ

評価

筆記試験70点、平常点（提出物を含む）30点、3分の2以上出席することで評価を受けることができる。60点以上を

合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材は教室で配布する。参考図書については必要に応じ教室で紹介する。

科目名	日本語（中級発展）		
担当教員名	小田 明子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

2年次の留学生を対象とする日本語授業で、1年次履修の「日本語 ・ 」に続き日本語の4技能（「読む」「書く」「聞く」「話す」）の向上を目指す。

科目の概要

さまざまなスタイルの文章を読み取り、それに基づいて自分の考え、意見を口頭および文章で表現する力をつける。読解では、正確に内容理解ができるように、構文・文法・語彙・表現の学習をあわせて行う。

学修目標

この科目を修了するために、以下のことに注意して授業に出席することが必要である。

1. 取り上げられるテーマについて文章を読んで内容を理解し、課題がこなせるようにする。
2. そのテーマについて考え、自分の意見を進んで述べ、授業に参加する。
3. 授業中の小テストおよび課題の提出物は、平常点として評価の対象となるので積極的に取り組む。

内容

1	ガイダンス、文法・読解の総合練習
2	新聞の読み方
3	新聞記事の読解（報道記事、解説記事、コラムなど） その1
4	新聞記事の読解（報道記事、解説記事、コラムなど） その2
5	説明文の読み方
6	説明文
7	評論・論説文の読み方
8	評論・論説文 その1
9	評論・論説文 その2
10	エッセーの読み方
11	エッセー
12	小説の読み方
13	小説
14	復習（文法の弱点補強、読解のテーマに関連した視聴覚教材の視聴）
15	まとめ

評価

筆記試験70点、平常点（提出物を含む）30点、3分の2以上出席することで評価を受けることができる。60点以上を

合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材は教室で配布する。参考図書については必要に応じ教室で紹介する。

科目名	日本語（上級基礎）		
担当教員名	前田 庸子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

2年次の留学生を対象とする日本語授業で、1年次履修の「日本語 ・ 」、および「日本語 」に続き日本語の4技能（読む、書く、聞く、話す）の向上を目指す。

科目の概要

さまざまなスタイルの文章を読み取り、それに基づいて自分の考え、意見を口頭および文章で表現する力をつける。読解では、正確に内容理解ができるように、構文・文法・語彙・表現の学習をあわせて行う。

学修目標

この科目を修了するために、以下のことに注意して出席することが必要である。

1. 取り上げられるテーマについて文章を読んで内容を理解し、課題がこなせるようにする。
2. そのテーマについて考え、自分の意見を進んで述べ、授業に参加する。
3. 授業中の小テストおよび課題の提出物は、平常点として評価の対象となるので積極的に取り組む。

内容

1	ガイダンス、文法・読解の総合練習
2	説明文・解説文 その1
3	説明文・解説文 その2
4	評論・論説文 その1
5	評論・論説文 その2
6	エッセー その1
7	エッセー その2
8	復習（文法の弱点補強、読解のテーマに関連した視聴覚教材の視聴）
9	文学作品を読む その1
10	文学作品を読む その2
11	文学作品を読む その3
12	さまざまな分野の読み物を用いた読解練習
13	さまざまな分野の読み物を用いた読解練習
14	さまざまな分野の読み物を用いた読解練習
15	まとめ

評価

筆記試験70点、平常点（提出物を含む）30点、3分の2以上出席することで評価を受けることができる。60点以上を

合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材は教室で配布する。参考図書については必要に応じ教室で紹介する。

科目名	日本語（上級基礎）		
担当教員名	八木 真千子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

2年次の留学生を対象とする日本語授業で、1年次履修の「日本語 ・ 」、および「日本語 」に続き日本語の4技能（読む、書く、聞く、話す）の向上を目指す。

科目の概要

さまざまなスタイルの文章を読み取り、それに基づいて自分の考え、意見を口頭および文章で表現する力をつける。読解では、正確に内容理解ができるように、構文・文法・語彙・表現の学習をあわせて行う。

学修目標

この科目を修了するために、以下のことに注意して出席することが必要である。

1. 取り上げられるテーマについて文章を読んで内容を理解し、課題がこなせるようにする。
2. そのテーマについて考え、自分の意見を進んで述べ、授業に参加する。
3. 授業中の小テストおよび課題の提出物は、平常点として評価の対象となるので積極的に取り組む。

内容

1	ガイダンス、文法・読解の総合練習
2	説明文・解説文 その1
3	説明文・解説文 その2
4	評論・論説文 その1
5	評論・論説文 その2
6	エッセー その1
7	エッセー その2
8	復習（文法の弱点補強、読解のテーマに関連した視聴覚教材の視聴）
9	文学作品を読む その1
10	文学作品を読む その2
11	文学作品を読む その3
12	さまざまな分野の読み物を用いた読解練習
13	さまざまな分野の読み物を用いた読解練習
14	さまざまな分野の読み物を用いた読解練習
15	まとめ

評価

筆記試験70点、平常点（提出物を含む）30点、3分の2以上出席することで評価を受けることができる。60点以上を

合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材は教室で配布する。参考図書については必要に応じ教室で紹介する。

科目名	日本語（上級基礎）		
担当教員名	小田 明子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

2年次の留学生を対象とする日本語授業で、1年次履修の「日本語 ・ 」、および「日本語 」に続き日本語の4技能（読む、書く、聞く、話す）の向上を目指す。

科目の概要

さまざまなスタイルの文章を読み取り、それに基づいて自分の考え、意見を口頭および文章で表現する力をつける。読解では、正確に内容理解ができるように、構文・文法・語彙・表現の学習をあわせて行う。

学修目標

この科目を修了するために、以下のことに注意して出席することが必要である。

1. 取り上げられるテーマについて文章を読んで内容を理解し、課題がこなせるようにする。
2. そのテーマについて考え、自分の意見を進んで述べ、授業に参加する。
3. 授業中の小テストおよび課題の提出物は、平常点として評価の対象となるので積極的に取り組む。

内容

1	ガイダンス、文法・読解の総合練習
2	説明文・解説文 その1
3	説明文・解説文 その2
4	評論・論説文 その1
5	評論・論説文 その2
6	エッセー その1
7	エッセー その2
8	復習（文法の弱点補強、読解のテーマに関連した視聴覚教材の視聴）
9	文学作品を読む その1
10	文学作品を読む その2
11	文学作品を読む その3
12	さまざまな分野の読み物を用いた読解練習
13	さまざまな分野の読み物を用いた読解練習
14	さまざまな分野の読み物を用いた読解練習
15	まとめ

評価

筆記試験70点、平常点（提出物を含む）30点、3分の2以上出席することで評価を受けることができる。60点以上を

合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材は教室で配布する。参考図書については必要に応じ教室で紹介する。

科目名	日本語（上級応用）		
担当教員名	八木 真千子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

3年次の留学生を対象とする日本語授業で、1年次履修の「日本語 ・ 」、2年次履修の「日本語 ・ 」に続き日本語の4技能（読む、書く、聞く、話す）の向上を目指す。

科目の概要

授業では、新聞、雑誌、文学作品などの生教材を使って読解力を高める練習を行い、上級レベルの日本語力をつける。教材のテーマをもとに、抽象性、社会性のある話題について自分の考えを正確に伝えられるように練習する。日本語学習として、文法・語彙・表現の補強も行う。

学修目標

この科目を修了するために、以下のことに注意して授業に出席することが必要である。

1. 取り上げられるテーマについて文章を読んで内容を理解し、課題がこなせるようにする。
2. そのテーマについて考え、自分の意見を進んで述べ、授業に参加する。
3. 授業中の小テストおよび課題の提出物は、平常点として評価の対象となるので積極的に取り組む。

内容

1	ガイダンス、文法・読解の総合練習
2	文章の読み方（1） 文章構造
3	短いエッセーをもとに、文法の確認と復習
4	説明文 その1
5	説明文 その2
6	評論・論説文 その1
7	評論・論説文 その2
8	長文の速読
9	短編小説 その1
10	短編小説 その2
11	エッセー その1
12	エッセー その2
13	文章の読み方（2） 二項対立
14	新聞 社説（意見を述べる）
15	まとめ

評価

筆記試験70点、平常点（提出物を含む）30点、3分の2以上出席することで評価をうけることができる。60点以上を

合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材は教室で配布する。参考図書については必要に応じ教室で紹介する。

科目名	日本語（上級応用）		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

留学生（3年次学生）のための日本語授業で、4つの技能（「読む」「書く」「聞く」「話す」）にわたり、上級段階の日本語を学びます。1年次履修の「日本語・」、2年次履修の「日本語・」を踏まえて、この科目を理解することが必要になります。

科目の概要

毎回、さまざまな分野から文章を選び、文法・読解学習を通して、自分の考えを口頭で、あるいは文章により、相手に適切に伝える練習を行います。授業では、身近な話題から初めて接するような話題まで、テーマを幅広く取り上げていきます。抽象的なテーマについても、自分の考えがうまく伝えられるようになることを目標に授業を進めます。

学修目標

この授業を修了するためには、授業中に課される課題を授業時間内で完成させ、できるだけ進んで自分の考えを表現していくことが求められます。

- 1 授業に出席し、問題となるテーマについて講義を受ける。
- 2 テーマを理解するための課題・構文練習を完成させ、意見交換を行う。
- 3 テーマ理解を深めるため、まとまった長さの文章を読み、日本語表現をさらに習得する。

内容

1	ウォーミングアップ：ガイダンス・日本語読解力を測る
2	A 指示することばに注意する（短文）
3	A 指示することばに注意する（中文）
4	A 指示することばに注意する（長文）
5	B 文のつながりに留意して読む（短・中文）
6	B 文のつながりに留意して読む（長文）
7	C 予測・推論をして文を読む（短・中文）
8	C 予測・推論をして文を読む（長文）
9	D 文章の組み立てをを考えて読む（短文）
10	D 文章の組み立てをを考えて読む（中文）
11	D 文章の組み立てをを考えて読む（長文）
12	D 文章の組み立てをを考えて読む（長文）
13	E 総合練習（4つの技能の総合練習）
14	E 総合練習（4つの技能の総合練習）
15	まとめ

評価

毎回の授業での課題完成（授業中に指示される読解のための課題完成）： 30%

筆記試験（まとまった文章を読み、理解を測る）： 70%

合計60%以上を合格点とします。

評価を受けるためには3分の2以上の出席が求められます。

合格点に達しなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教室での配布物が授業教材となります。

科目名	日本語（上級発展）		
担当教員名	八木 真千子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

3年次の留学生を対象とする日本語授業で、1年次履修の「日本語 ・ 」、2年次履修の「日本語 ・ 」、および「日本語 」に続き、日本語の4技能（読む、書く、聞く、話す）の向上を目指す。

科目の概要

授業では新聞、雑誌、文学作品、専門書などの生教材を使って読解力を高める練習を行い、上級レベルの日本語力をつける。教材のテーマをもとに、抽象性、社会性のある話題について自分の考えを正確に伝えられるように練習する。日本語学習として、文法・語彙・表現の補強も行う。

学修目標

この科目を修了するために、以下のことに注意して授業に出席することが必要である。

1. 取り上げられるテーマについて文章を読んで内容を理解し、課題がこなせるようにする。
2. そのテーマについて考え、自分の意見を進んで述べ、授業に参加する。
3. 授業中の小テストおよび課題の提出物は、平常点として評価の対象となるので積極的に取り組む。

内容

1	ガイダンス、文法・読解の総合練習
2	文章の読み方（3） 要約の練習
3	評論・論説文 その1
4	評論・論説文 その2
5	短編小説 その1
6	短編小説 その2 あらすじを書く
7	新聞 インタビュー記事
8	クイズ形式の速読
9	エッセー その1
10	エッセー その2
11	新聞 コラム
12	説明文 その1
13	説明文 その2 前回の説明文に関連した新聞の特集記事
14	詩歌（解釈し、感想を述べる）
15	まとめ

評価

筆記試験 70 点、平常点（提出物を含む）30 点、3分の2以上出席することで評価を受けることができる。60 点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教材は教室で配布する。参考図書については必要に応じ教室で紹介する。

科目名	日本語（上級発展）		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

留学生（3年次学生）のための日本語授業で、4つの技能（「読む」「書く」「聞く」「話す」）にわたり、上級段階の日本語を学びます。1年次履修の「日本語・」、2年次履修の「日本語・」、及び「日本語」を踏まえて、この科目を理解する必要があります。

科目の概要

毎回、さまざまな分野から、さまざまなスタイルの文章を選び、文法・読解学習を通して、自分の考えを口頭で、あるいは文章により、相手に適切に伝える練習を行います。授業では、身近な話題から、初めて接するような話題まで、幅広く取り上げていきます。抽象的なテーマについても、自分の考えがうまく伝えられるようになることを目標に授業を進めます。

学修目標

この授業を修了するためには、授業中に課される課題を授業時間内で完成させ、できるだけ進んで自分の考えを表現していくことが求められます。

- 1 授業に出席し、問題となるテーマについて講義を受ける。
- 2 テーマを理解するための課題・構文練習を完成させ、意見交換を行う。
- 3 テーマ理解を深めるため、まとまった長さの文章を読み、日本語表現をさらに習得する。

内容

1	A	文章を読む基本の問題：要点・段落・主題・場面・心情などの読み取り
2	A	文章を読む基本の問題：要点・段落・主題・場面・心情などの読み取り
3	A	文章を読む基本の問題：長文読解・要旨のまとめ・意見交換
4	B	説明文・解説文を読む
5	B	説明文・解説文を読む
6	B	説明文・解説文を読む
7	C	意見文・論説文を読む
8	C	意見文・論説文を読む
9	C	意見文・論説文を読む
10	C	意見文・論説文を読む
11	D	エッセイを読む
12	D	物語文・小説（抜粋）を読む
13	E	総合練習（4つの技能の総合練習）
14	E	総合練習（4つの技能の総合練習）
15		まとめ

評価

毎回の授業での課題完成（授業中に課される読解のための課題完成）： 30%

筆記試験（まとまった文章を読み、理解を測る）： 70%

合計60%以上を合格点とします。

評価を受けるためには3分の2以上の出席が求められます。

合格点に達しなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教室での配布物が授業教材となります。

科目名	日本語表現技術（上級基礎）		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

留学生（2年次学生）のための日本語関連科目の中で、特に「書く」ことを中心に授業を進め、日本語力の向上を目指す科目です。1年次履修の「日本語表現技術 ・ 」を踏まえて、この科目を学習することが必要になります。

科目の概要

毎回、授業で取り上げるテーマ（文章の訂正・文章の組み立て・文章のまとめなど）を設定し、それに沿った課題をこなしながら、読む人に正しく伝わることを目標にして、文を書く練習を行います。「書く」練習を通して、一段上の「表現する技術」を身につけることを目指します。

学修目標

この授業を修了するためには、授業中に課される課題を授業時間内で完成させることが必要になります。

- 1 授業に出席し、問題となるテーマについて講義を受ける。
- 2 テーマを理解するための課題・構文練習を完成させる。
- 3 テーマ理解を深めるため、まとまった長さの文章を書き、適切な日本語表現を習得する。
- 4 自分で書きあげた文章を見直し、より良いものに仕上げようという姿勢が求められます。

内容

1	客観と意見の区別：絵から事実のみを読み取る・聞き取った内容を正確に伝える
2	客観と意見の区別：聞き取った内容を正確に伝える
3	客観と意見の区別：事実と意見を分離する（情報源を確認する・意見を述べる表現を学ぶ）
4	客観と意見の区別：事実と意見を分離する（自分の考えを適切に表現する）
5	客観と意見の区別：発想材料から文章を組み立てる（メモから文章を組み立てる）
6	客観と意見の区別：発想材料から文章を組み立てる（アウトラインの作成）
7	正しい文を書く：漫画を文章で表す・悪文を訂正する
8	正しい文を書く：難解な文をわかりやすく書きかえる
9	正しい文を書く：難解な文をわかりやすく書きかえる
10	正しい文を書く：難解な文をわかりやすく書きかえる
11	正しい文を書く：5W1Hを落とさずに書く
12	正しい文を書く：5W1Hを落とさずに書く
13	正しい文を書く：発想材料から文章を組み立てる（アウトラインに沿って表現する）
14	正しい文を書く：発想材料から文章を組み立てる（アウトラインに沿って表現する）
15	まとめ

評価

各回授業での課題の完成（授業中に課す課題を完成させることが評価の対象になります）： 30%

筆記試験（まとまった長さの文章を書くことが求められます）： 70%

合計60%以上を合格点とします。

評価を受けるためには3分の2以上の出席が求められます。

合格点に達しなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教室での配布物が授業教材となります。

科目名	日本語表現技術（上級発展）		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

留学生（2年次学生）のための日本語関連科目の中で、特に「書く」ことを中心に授業を進め、日本語力の向上を目指す科目です。1年次履修の「日本語表現技術 ・ 」及び「日本語表現技術 」を踏まえて、この科目を理解することが必要になります。

科目の概要

毎回、授業で取り上げるテーマ（文章の内容を正しく読み取る・図表を読んで理解するなど）を設定し、課題をこなしながら、読む人に正しく伝わることを目標にして、文を書く練習を行います。「書く」練習を通して、一段上の「表現する力」を身につけることを目指します。

学修目標

この授業を修了するためには、授業中に課される課題を授業時間内で完成させることが必要になります。

- 1 授業に出席し、問題となるテーマについて講義を受ける。
- 2 テーマを理解するための課題・構文練習を完成させる。
- 3 テーマ理解を深めるため、まとまった長さの文章を書き、適切な日本語表現を習得する。
- 4 自分で書きあげた文章を見直し、より良いものに仕上げようという姿勢が求められます。

内容

1	要旨をまとめる：短い文章の要旨をつかむ
2	要旨をまとめる：短い文章の要旨をつかむ
3	要旨をまとめる：段落ごとに内容をつかむ
4	要旨をまとめる：自分のことばで内容をまとめる
5	要旨をまとめる：自分のことばで内容をまとめる
6	図表を読んで表現する：図表を含んだ文章の読解練習
7	図表を読んで表現する：図表の提示・数字を文で表す
8	図表を読んで表現する：データの分析・考察
9	図表を読んで表現する：資料を使ってデータを分析する
10	図表を読んで表現する：資料を使ってデータを分析する
11	総合練習：ことわざを題材にして、意見文を書く
12	総合練習：ことわざを題材にして、意見文を書く
13	総合練習：テキストを読んで、意見を述べる
14	総合練習：テキストを読んで、意見を述べる
15	まとめ

評価

各回授業での課題の完成（授業中に課す課題を完成させることが評価の対象になります）： 30%

筆記試験（まとまった長さの文章を書くことが求められます）： 70%

合計60%以上を合格点とします。

評価を受けるためには3分の2以上の出席が求められます。

合格点に達しなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教室での配布物が授業教材となります。

科目名	専門日本語演習 (基礎)		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

留学生(2年次学生)対象の授業です。「文法」「発音」などの問題に焦点を当てて練習を行います。問題の理解に加え、専門・日常場面でのより高い日本語運用力を身につけることを目指します。

科目の概要

授業は次の4つの事柄について毎回プリントを配布し、与えられた課題について自ら考え、答えを出していくという演習形式で授業を行います。

- (1) 助詞：基本的な用法確認・動詞との関係を考える・類似表現の比較
- (2) 発音：発音の仕組みの理解・音の聞き分け・発音と聴解練習
- (3) 語彙：語彙を増やす練習・音読みのことばと訓読みのことば・目的や場面による語彙の選択
- (4) 文法：視点の変化による表現の違い(「スルとナル」「授受表現」「受身使役表現」など)

学修目標

この授業を修了するには、授業中に課せられる課題を完成させることが必要になります。さらに以下の事柄が求められます。

- 1 積極的に授業に参加し、自分で考え、答えを出していくという姿勢。
- 2 提示された課題についての予習・復習。
- 3 助詞・発音など、異なる分野の学習の整理。

内容

1	授業ガイダンス・発音 (長音)・語彙 (「～する」漢語動詞)
2	発音 (長音)・語彙 (「～する」漢語動詞)・助詞の使い分け
3	発音 (長音)・語彙 (漢語動詞)・助詞の使い分け ・構文 (スル・ナル)
4	発音 (長音)・語彙 (漢語動詞)・助詞の使い分け ・構文 (スル・ナル)
5	発音 (長音)・語彙 (漢語動詞)・助詞の使い分け ・構文 (スル・ナル)
6	発音 (無声化)・語彙 (漢語動詞)・助詞の使い分け ・構文 (視点の違いと表現)
7	発音 (無声化)・語彙 (漢語動詞)・助詞の使い分け ・構文 (視点の違いと表現)
8	発音 (「濁音」)・語彙 (動詞)・助詞の使い分け ・構文 (授受表現)
9	発音 (「濁音」)・語彙 (副詞)・助詞の使い分け ・構文 (授受表現)
10	発音 (「ダナラ行音」)・語彙 (副詞)・助詞の使い分け ・構文 (授受表現)
11	発音 (ダナラ行音)・語彙 (形容詞)・助詞の使い分け ・構文 (原因・理由の表現)
12	発音 (促音)・語彙 (形容詞)・助詞の使い分け ・構文 (受身・使役)
13	発音 (促音)・語彙 (形容詞)・助詞の使い分け ・構文 (条件を表す表現)
14	発音 (拗音)・語彙 (形容詞)・助詞の使い分け ・構文 (条件を表す表現)
15	まとめ

評価

課題の準備（翌週のための課題が課せられます）：30%

筆記試験（授業で学習した事柄の理解度を測ります）：70%

合計60点以上を合格とします。

評価を受けるためには3分の2以上の出席が求められます。

合格点に達しなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教室での配布物が授業教材となります。

科目名	専門日本語演習（発展）		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

留学生（2年次学生）対象の授業で、「文法」「語彙」などの問題練習を行います。内容理解に加え、専門・日常場面でのより高い日本語運用力を身につけることを目指します。「専門日本語演習（基礎）」を踏まえてこの科目を履修する必要があります。

科目の概要

授業は次の4つの事柄について毎回プリントを配布し、演習形式で授業を行います。

- （1）助詞：基本助詞の用法確認・類似表現の比較・終助詞について
- （2）発音：アクセント・イントネーション・話しことばの省略形・発音と聴解練習
- （3）語彙：語彙を増やす練習・音読みのことばと訓読みのことば・「思考」「推量」を表す言葉
- （4）文法：配慮表現（敬語を含む）・さまざまな文末の表現（婉曲表現・否定を含む表現など）

学修目標

この授業を修了するには、授業中に課せられる課題を完成させることが必要になります。さらに以下の事柄が求められます。

- 1 積極的に授業に参加し、自分で考え、答えを出していくという姿勢。
- 2 提示された課題についての予習・復習。
- 3 助詞・発音など、異なる分野の学習の整理。

内容

1	授業ガイダンス・発音（アクセント）・基本助詞の使い分け・語彙（訓読み）
2	発音（アクセント）・基本助詞の使い分け・語彙（訓読み）・構文（配慮表現）
3	発音（アクセント）・基本助詞の使い分け・語彙（訓読み）・構文（配慮表現）
4	発音（アクセント）・基本助詞の使い分け・語彙（訓読み）・構文（配慮表現）
5	発音（アクセント）・基本助詞の使い分け・語彙（訓読み）・構文（配慮表現）
6	発音（アクセント）・基本助詞の使い分け・語彙（訓読み）・構文（配慮表現）
7	発音（アクセント）・基本助詞の使い分け・語彙（訓読み）・構文（配慮表現）
8	発音（アクセント）・基本助詞の使い分け・語彙（訓読み）・構文（配慮表現）
9	発音（イントネーション）・終助詞・語彙（訓読み）・構文（配慮表現）
10	発音（イントネーション）・終助詞・語彙（訓読み）・構文（文末表現）
11	発音（イントネーション）・終助詞・語彙（訓読み）・構文（文末表現）
12	発音（イントネーション）・終助詞・語彙（思考）・構文（文末表現）
13	発音（省略形）・助詞（総合練習）・語彙（推量）・構文（文末表現）
14	発音（省略形）・助詞（総合練習）・語彙（推量）・構文（文末表現）
15	まとめ

評価

課題の準備（翌週のための課題が課せられます）：30%

筆記試験（授業で学習した事柄の理解度を測ります）：70%

合計60点以上を合格とします。

評価を受けるためには3分の2以上の出席が求められます。

合格点に達しなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教室での配布物が授業教材となります。

科目名	日本研究（地理）		
担当教員名	安恒 佳代子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

留学生を対象とした、日本語を勉強する上での背景となる日本文化・日本社会を勉強する科目である。

科目の概要

この授業では主に日本の地理・気候を中心に日本事情を紹介する。また、自分で参考書を調べ、作業しながら、日本事情を理解するとともに、さまざまな語彙や文法表現、慣用語なども勉強することで日本語の運用力の向上も目指す。

学修目標

この授業を修了するには予習よりも復習に力をおき、確実に覚えていくことが必要である。

随時復習テストがあるので、続けて出席することが何よりも大事である。出席していれば、自然と覚えていくものがたくさんあり、また、日本に対する興味も広がっていくはずである。

内容

1	1.日本の位置 2.大都市
2	3.都道府県と9地方
3	4.人口密度 5.高齢化
4	6.首都圏
5	7.日本の四季 8.季節風
6	9.つゆ 10.台風
7	11.日本列島
8	12.九州・沖縄地方
9	13.中国地方 14.四国地方
10	15.近畿地方
11	16.中部地方
12	17.関東地方
13	18.東北地方
14	19.北海道地方
15	まとめ

評価

評価

平常点（小テスト・課題の提出・発表）：30%

筆記試験：70%

合計60点以上を合格点とする。

三分の二以上の出席で評価を受けることができる

合格点に達しなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】江波戸昭監修『日本の地図』成美堂出版

その他必要に応じてプリントを配布する

科目名	日本研究（産業）		
担当教員名	安恒 佳代子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

留学生を対象とした、日本語を勉強する上での背景となる日本文化・日本社会を勉強する科目である。
前期履修の『日本研究 』を踏まえて本科目を理解する必要がある。

科目の概要

この授業では主に日本の産業・文化を中心に日本事情を紹介する。統計データを読み取り、現在の問題について考えたり、関連のある新聞記事や参考資料を読みながら、日本事情を理解するとともに、必要な語彙を増やし、自分の意見を発表することで日本語の運用力の向上も目指す。

学修目標

この授業を修了するには授業で取り上げたテーマについて自分で調べたり、よくニュースや新聞を読んで自分の考えをまとめる作業をしておくことが一番力になる。

また、授業で配布された資料に必要な事項を書き入れ、なくさずまとめていくことがとても大事である。

内容

1	日本の産業構造
2	日本の農業
3	農産物（米・野菜・果物）
4	日本の畜産業
5	日本の水産業
6	水産業の変化
7	日本の工業
8	機械工業 1 . 2
9	中小工場と大工場
10	日本の商業
11	日本の交通
12	日本の文化
13	日本の年中行事
14	復習
15	まとめ

評価

評価

平常点（小テスト・課題の提出・発表）：30%

筆記試験：70%

合計60点以上を合格点とする。

三分の二以上の出席で評価を受けることができる。

合格点に達しなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】教室での配布物が授業教材となる

科目名	日本研究（政経基礎）		
担当教員名	前田 庸子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

2年次の留学生を対象とする。

科目の概要

日本の経済活動を理解する上で助けとなるトピックを取りあげ、学習する。テキストは、外国人のために書かれたものを使用し、それに新聞、雑誌などの生の読み物を加えていく。経済関連の知識と同時に、文型、語彙なども増やしていく。

学修目標

専門課程に必要な日本文化・日本社会に関する基本的な知識を習得する。同時に日本の経済活動を理解する助けとなるような社会的習慣を学び、経済活動に関係する一般的な知識や語彙を増やす。

内容

1	日本の姿
2	日本の姿
3	日本の自然
4	日本の自然
5	旅
6	資料を読む
7	日本語について
8	日本語について
9	日本のサラリーマン
10	日本のサラリーマン
11	冠婚葬祭
12	冠婚葬祭
13	コミュニケーション
14	コミュニケーション
15	まとめ

評価

筆記試験70点、平常点（提出物を含む）30点、3分の2以上出席することで、評価を受けることができる。60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は第 1 回目の教場で指示する。

参考図書は必要に応じ、教室で紹介する。

科目名	日本研究（政経発展）		
担当教員名	小田 明子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

前期の「日本研究」で得た日本の社会・文化についての基本的知識を踏まえて履修する科目です。

科目の概要

日本社会の中で実際に生活し、学び、仕事をしていく上で必要な役に立つ日本語、コミュニケーションスキルを実践的に学びます。前期同様、日本の政治や経済その他「日本社会の今」を知ることができる教材等を使って、レジュメ、報告書など、いろいろな形の文章にまとめたり、内容を口頭で発表するなど、実践的な日本語運用力を養います。

学修目標

この授業では、次のことに留意して学習してください。

1. 毎回の授業への積極的な参加
2. 課題の提出
3. スピーチ・プレゼンテーション力をつける
4. 実用的な文章に親しむ。

内容

1	オリエンテーション 自己紹介と自己アピール
2	新聞記事の基礎知識
3	新聞記事を読んでハンドアウトにまとめる
4	ハンドアウトにまとめた記事を発表する
5	日本人のコミュニケーションスタイル
6	ビジネス慣習とマナー
7	いろいろな場面で使う敬語
8	報告書を書く
9	提案書を書く
10	提案内容を発表する
11	メール・ビジネス文書
12	広告コピー・説明書を読む
13	就職活動・インターンシップなどに役に立つ日本語
14	復習・整理
15	まとめ

評価

平常点（課題の提出・発表）：30%

筆記試験：70%

合計60点以上を合格とします。

合格点に達しなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教室での配布物が授業教材となります。

科目名	日本研究（一般社会基礎）		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

留学生（3・4年次）を対象とする日本語授業です。日本文化・日本社会に関するさまざまな話題、異なる分野の読み物、新聞記事やニュースなどを素材として取り上げ、一段上の日本語レベルに到達することを目指します。また、日本での活動の手助けとなるような社会的習慣についても学習します。1年次履修の「日本研究A・B」2年次履修の「日本研究C・D」を踏まえての履修が必要です。

科目の概要

日本語学習に関しては、「語彙力」「要約力」「聴解力」「速読力」の向上を目標に学習します。

- （1）語彙：社会生活における頻出語の習得（分野「社会・福祉・労働・医療・災害・交通」等）
- （2）聴解：ニュースなどの聞き取り・ニュースによく出る語句の習得（書取と表現練習）
- （3）読解：いろいろな分野の読み物の速読・内容把握

学修目標

新聞記事・ニュース・雑誌記事などを材料とし、毎回、演習形式で授業を進めていきます。そのため、この授業の修了には次のことが求められます。

- 1 授業で配布される問題・課題について、あらかじめ考え、解答を準備する。
- 2 授業中に行う意見交換・読解練習の内容をまとめることが課題となり、この課題を完成する。
- 3 積極的に課題をこなす姿勢が求められる。

内容

1	授業ガイダンス・語彙（社会）・ニュースのことば（1～5）・読解
2	語彙（社会）・ニュースのことば（6～10）・読解
3	語彙（福祉）・ニュースのことば（11～15）・読解
4	語彙（家庭）・ニュースのことば（16～20）・読解
5	語彙（仕事）・ニュースのことば（21～25）・読解
6	語彙（仕事）・ニュースのことば（26～30）・読解
7	語彙（医療・健康）・ニュースのことば（31～35）・読解
8	語彙（医療・健康）・ニュースのことば（36～40）・読解
9	語彙（犯罪）・ニュースのことば（41～45）・読解
10	語彙（犯罪）・ニュースのことば（46～50）・読解
11	語彙（交通）・ニュースのことば（51～55）・読解
12	語彙（交通）・ニュースのことば（56～60）・読解
13	語彙（災害）・ニュースのことば（61～65）・読解
14	語彙（災害）・ニュースのことば（総合練習）・読解
15	まとめ

評価

課題の完成（授業準備のための課題） 30%

筆記試験（学習の理解度の測定） 70%

合計60点以上を合格とします。

評価を受けるためには3分の2以上の出席が求められます。

合格点に達しなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教室での配布物が授業教材となります。

科目名	日本研究（一般社会発展）		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-日本語強化科目群		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	日本語		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

留学生（3・4年次）を対象とする日本語授業です。日本文化・社会に関するさまざまな話題、異なる分野の文章、新聞記事などを素材として取り上げ、より高い日本語レベルに到達することを目指します。また、日本での活動の助けになる社会的習慣についても学習します。1年次履修の「日本研究A・B」、2年次履修の「日本研究C・D」、及び「日本研究E」を踏まえての履修が必要です。

科目の概要

日本語学習に関しては、「語彙力」「要約力」「聴解力」「速読力」の向上を目標に学習します。

- （1）語彙：社会生活における頻出語の習得（分野「環境・経済・情報」等）
- （2）聴解：ニュースなどの聞き取り・ニュースによく出る語句の習得（書取と表現練習）
- （3）読解：いろいろな分野の読み物の速読・内容把握

学修目標

新聞記事・ニュース・雑誌記事などを材料とし、毎回、演習形式で授業を進めていきます。そのため、この授業の修了には次のことが求められます。

- 1 授業で配布される問題・課題について、あらかじめ考え、解答を準備する。
- 2 授業中に行う意見交換・読解練習の内容をまとめることが課題となり、この課題を完成する。
- 3 積極的に課題をこなす姿勢が求められる。

内容

1	授業ガイダンス・語彙（災害）・読解
2	語彙（経済）・ニュースのことば（66～70）・読解
3	語彙（経済）・ニュースのことば（71～75）・読解
4	語彙（政治）・ニュースのことば（76～80）・読解
5	語彙（政治）・ニュースのことば（81～85）・読解
6	語彙（環境）・ニュースのことば（86～90）・読解
7	語彙（環境）・ニュースのことば（91～95）・読解
8	語彙（情報）・ニュースのことば（96～100）・読解
9	語彙（情報）・新聞によく出ることば・読解
10	語彙（人口）・新聞によく出ることば・読解
11	語彙（労働）・新聞によく出ることば・読解
12	語彙（労働）・新聞によく出ることば・読解
13	語彙（教育）・新聞によく出ることば・読解
14	語彙（文化）・新聞によく出ることば・読解
15	まとめ

評価

課題の完成（授業準備のための課題） 30%

筆記試験（学習の理解度の測定） 70%

合計60点以上を合格とします。

評価を受けるためには3分の2以上の出席が求められます。

合格点に達しなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教室での配布物が授業教材となります。